

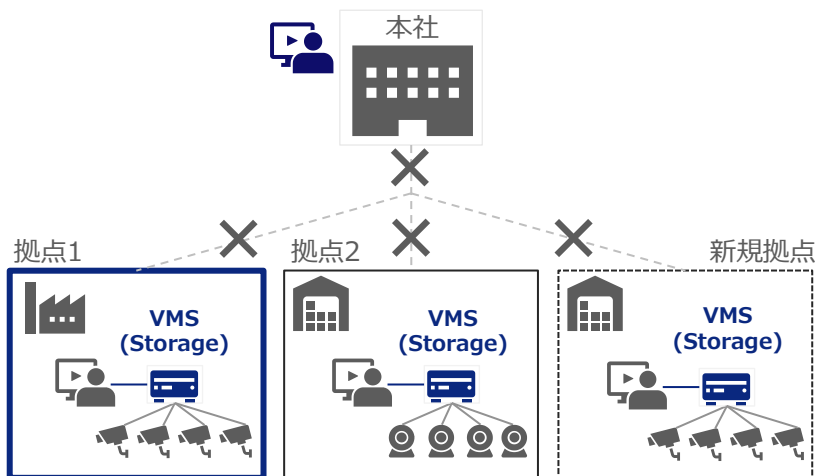
# KDDI Video Management Serviceによるセキュアな映像管理

## Before

### 従来の映像管理システム

- ・秘匿性の高い映像保管のため、拠点ごとに映像管理・システム構築しており各拠点の担当者がシステム運用を実施。
- ・拠点ごとに投資/設備更改が必要のため、効率的な投資ができず、コスト高。
- ・拠点に依存したシステムの保守運用によるセキュリティリスクなどが大きな課題。

#### 1 本社など、中央拠点における映像管理・閲覧ができない



#### 2 システム運用を各拠点に依存、セキュリティやバックアップの課題

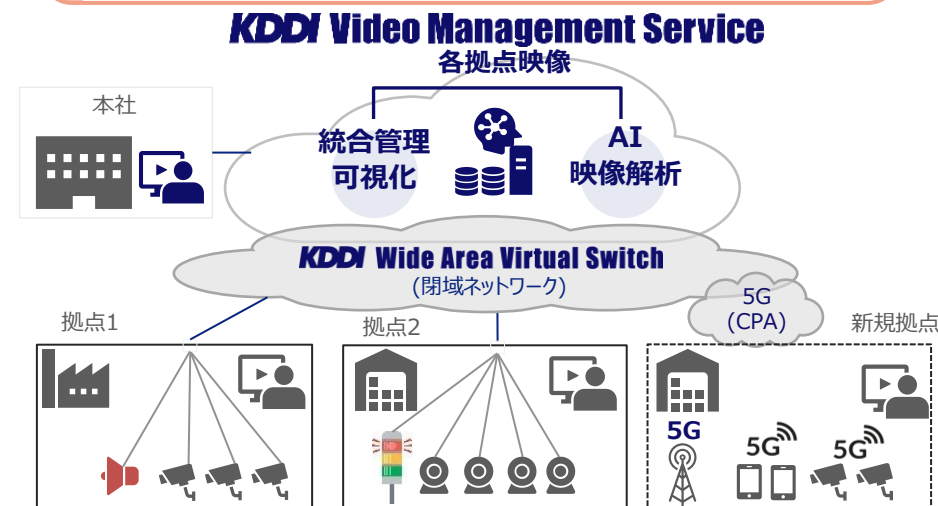
#### 3 各拠点に保存された映像は利活用されず監視のためのみ利用

## After

### KDDI Video Management Service

- ・秘匿性の高い映像を、KDDIの“セキュア”なネットワークとクラウドで統合管理・可視化。
- ・クラウド活用による映像管理ソフトウェアの最新化とクラウドストレージによるバックアップ強化。
- ・カメラの管理に加え、スピーカーやパトランプと連携し、監視業務の効率化を実現。  
(モーション検知×パトランプなど)
- ・AI映像解析による、DX実現に向けた映像の利活用。

#### 1 本社など中央拠点による映像統合管理、ガバナンス強化



#### 2 クラウド活用によるソフトウェア最新化とデータバックアップ強化

#### 3 集約された映像をAIにより解析、DX実現に向けた映像利活用

KDDI Wide Area Virtual Switch (KDDIが提供するイントラネットサービス)  
CPA: Closed Packet Access (KDDIが提供するリモートアクセスサービス)

# KDDI Video Management Serviceの提供価値

## KDDI Video Management Service (KVMS) が各企業のDX実現を後押し

- 映像統合管理・システム連携による監視業務の効率化
- リモートからのリアルタイム映像把握、現場との報告・指示共有による働き方改革
- AI映像解析による、業務改革（作業員の安心安全対策、設備異常検知など）
- 秘匿性の高い映像データを“セキュア”なNW・クラウドで集約管理

### 既存課題とKVMSによる業務変革（お客さまからの声：一例）

課題/期待	KVMSによる解決
データの別置保管	録画機器破損時 動画欠損リスク ・撮影した映像をクラウド上で冗長保管するため、万が一の災害時でも、映像は消滅しない
リアルタイム遠隔監視	複数拠点の映像を一元管理できない ・従来は、拠点ごとに映像を管理していたが、複数拠点の映像をクラウドで一元管理を実現
監視業務の高度化	災害等、有事の初動対応や外出・不在時の管理 ・休日夜間、外出時でも現場の状況をモニタリング可能、いつでもどこでも*現場の状況把握が可能（働き方改革・テレワーク対応） *スマートフォンなどにアプリをインストールする必要あり
	映像内の危険な状況をリアルタイムに検知できない ・KVMSでは蓄積した映像をAIで解析することが可能であり、将来的に現場の危険な状況を検知、管理者にリアルタイム通知することを目指す

